

生食を初めて与える際

ドライフードや缶詰からの切り替えと、そのベネフィット。*

これは雑誌「Raw Instincts」2012年、Vol.1 第1号 (<http://www.rawinstinctsmagazine.com/>) に最初に掲載された記事です。

おめでとうございます。貴方はこれから素晴らしい発見の旅を歩み始めようとしています。貴方のペットの食事を工業食品から野生動物の食事に近い、健康的で、生の自然な食べ物に切り替えることは、貴方と貴方のペットに数えきれないほどのベネフィットをもたらすでしょう。

固定概念を捨ててください。きっと最初は少々不安がありスムーズな移行を望んでいることでしょう。それではどうすれば切り替えプロセスを可能な限り簡単で楽しいものにできるでしょうか？おそらく私ができる一番のアドバイスは、今まで何年も頼ってきた信念と思い込みを捨てるよう努力することです。或は、せめてご自身で自然食の多岐にわたるベネフィットを経験するまで、今までの信念と思い込みは保留にしておいてください。

私が始めて自分の動物達に自然な食事を与え始め、私のクライアント(飼い主さん達)の動物にも自然食をすすめた時、私は相反する信念や考えに悩まされました。私は獣医学校で、ペットは、白衣を着た専門家と呼ばれる人達が考案した工場食品を与えられることが一番良いのだと刷り込まれていました。スーパーの棚に並ぶ沢山の商品は、動物達にとって絶対に良いはずだ、そうでなければそこにあるわけがない、と思っていました。そして5年間の獣医学校と動物病院で数年間勤務した後、私はむしろ自分は動物を診断して治療する重要な立場の人間だと思い込んでいました。獣医学書、獣医学会、獣医学規制機関の全てがこのような態度と思い込みを強めたのです。

工業食品を拒否し、生食を受け入れることを検討しただけでも、あらゆる内心の葛藤や矛盾が生じました。恐れ(FEAR=間違った予想が現実かのように見えてしまう)が立ち込めました。私は、自分が推奨したことでペットが窒息したり、深刻な代謝性疾患や細菌性感染症にならないかと心配しました。社会通念に逆らうことで、私はクライアントや同僚の怒りを買ひ、もしかすると懲戒処分さえもうけるリスクを負っていたのです。

栄養と健康と病気に関する新しいパラダイムを作り上げることは新しい家を建てるのに少々似ています。まず最初に、ゴミを取り除き、土地をならし、頑丈な基礎を築きます。ひび割れて脆弱な建築が不安定な土地の上に経っていることが露呈するようなことがないように、我々の家には歳月がたっても丈夫で長持ちして欲しいのです。それは、ペット達の栄養的健康的ニーズに対する我々の新しい視点も同じです。古く役立たずな考え方や不健全な基礎は避けなければなりません。

私はこの15年間、本や記事を書いて生食を与えることの理論的な側面を推奨してきました。最近私は、自身の動物病院の一つを再開し、現在は、子犬子猫、大人の犬猫

を診ています。飼い主は例外なく、ジャンクフードを与えており、ペット達は例外なく、なんらかのジャンクフード由来の病気を患っています。

動物病院を訪れる理由に関わらず、飼い主には、自然食の素晴らしさについてのレクチャーが振る舞われます。

健康に不可欠な自然食

ほとんどの飼い主は、食生活と良好な健康の明白なつながりを目の当たりにします。ガリガリに痩せていた子犬や子猫は、新たな活力に満ちてきます。中年の動物達は、輝く瞳と艶やかな毛並み、そして新たな落ち着きが出てきます。年配の動物は、基本的に食事の変更だけでなく歯科治療も必要になります。歯科治療と食事を一緒に取り入れた時、驚きの健康効果がもたらされます。

この数週間の中に、我々は、数匹の犬と猫に歯科治療を施しました。ある12歳の犬のオーナーは、他の獣医がくれたように関節炎の薬を要求してきました。私は代わりに、小さな犬の悲惨な口内の状態を指摘し、歯科治療を施す許可を得ました。私は17本の歯を抜き、その他はクリーニングしました。患者は目覚ましい回復を見せました。次の犬は失神の症状に見舞われていました。その犬もまた、17本の歯が抜歯され、自然食が与えられました。「他の獣医はなぜこの治療法をすすめなかったのですか？」とオーナーは聞きました。言うまでもなく、患者は、大いに回復し、誇らしげなオーナーは元気いっぱい生まれ変わった犬を特別に見せに来てくれました。

もう1人のオーナーは、8歳になる飼い犬のテリアの口臭が少々気になっていました。21本の歯がない今、犬は、鶏の胴ガラ、ウズラ、そして牛の心臓を喜んで食べています。オーナーは、強く確信しています。

ジョシュとシージャーは、町の新しい獣医になった私の所へ何気なくやってきて、鶏の胴ガラ、仔羊の頭、牛の喉／食道を持って帰りました。数日後、彼らは一歳になる飼犬のブッダとエリーと一緒に動物病院の入り口に現れました。「あれから24時間以内に、被毛の臭いと口臭が改善し始めました。そして48時間以内には犬達の臭いは消え、お互いの糞を食べなくなりました。」と話し感激していました。私は、飼い主と会話をしている間、犬達に牛のオマズム（第三胃）を与えて齧らせました。

動物病院に行かずに、動物達の健康が非常に良くなったことを示す飼い主の「ビフォー」「アフター」のコメントに注目してください。オーナーは、単に食事を替えただけで、何十万円もする治療費を節約できたのです。

はじめに

理想的な世界では、子犬や子猫は、まだ巣の中にいる間に、大きなサイズの自然な食べ物を初めて与えられます。彼らは、硬く噛みごたえのある食べ物を食べる技術を身につけ、皆と一緒に食べることを学びます。それは、動物達にとって、食べ物を引っ張り合ったり、競い合ったり、楽しい時なのです。

ジャンクフードを既に食べている子犬や子猫に与え始める場合は、問題が生じるかも

しれません。食事の切り替えを徐々にするのか、それとも突然するのか。可能なら、何の前ぶれもなく完全な切り替えを行うことをおすすめします。単に前の餌を止めて新しい方を与えるのです。最初は、一つの食材を選んで、切り替えがうまく完了するまでそれを与え続けるのがベストです。丸鶏や鶏の背中や胴ガラは、全てのサイズの猫や犬にとって最適な最初の食事になります。

単にそれらの食べ物を地面に投げてやり、貴方のペットが匂いを嗅いだり、舐めたり、最後には、そのごちそうに食らいつくのを見ていてください。食事を与える際、最初の数回は、つい近寄って見守りたくなるかもしれませんが。ペットの邪魔にならないように、少し離れて見守るようにしましょう。鶏、又は、その他に選んだ食べ物を一週間ほど与えてみて消化不良などがなければ、他の様々な種類の大きな骨付き生肉やカーカスを導入することができます。初めての食材を導入する際は、次の種類に移行する前に、その都度一週間位は同じ物を与えるようにしてください。

さらに詳しい情報は、ウェブサイト www.rawmeatybones.com にある記事、本、写真やビデオを是非ご覧ください。貴方は、すぐに知識豊富なエキスパートになり、自然食の素晴らしさについて、友達や親戚と知識を分かち合い楽しく語り合っていることでしょう。

***この記事は、主に犬と猫のオーナー向けですが、フェレットやエキゾチックな肉食動物を飼っていても基本原則は同じです。**